

Vol.
4

ヴィオラの魅力は内声を弾く面白さ

ヴィオラ首席 成田 寛 (なりた ひろし)



©Photo by H.Sugimoto

Q ヴィオラに出会ったきっかけは？

A 高校のオーケストラの授業で、ヴァイオリン科の生徒が持ち回りでヴィオラを弾くんだけど、1年生のときにヴィオラを割り当てられたんです。学校から貸し出された楽器がたまたま音がやわらかい良い音で。でも、ヴァイオリンやチェロと違ってハ音記号の楽譜なんて読めなかったから、コテンパンにいじめられましたね。それで、1つ1つ音を読みながら、ヘンデルの「コンチェルト・グロツ」を1週間で丸暗記したりして。それから、室内楽やオーケストラの授業は直談判して全てヴィオラを弾かせてもらいました。

Q 大学からヴィオラに転科した、そのヴィオラの魅力とは？

A 楽器自体の魅力もちろんあるけど、オーケストラの中の仕事内容、「内声」を弾く面白さですね。小さい頃から内声を聴くようになっていたのかもしれない。父が新日本フィルの創立メンバーで2ndファゴット吹きだったんですけど、テレビでよく流れていた「君が代」は、歌詞よりもベースラインを先に覚えました。

Q オランダに2回留学、ロンドンでのセミナーにも定期的に参加されています。

A オランダに89年9月に渡って、11月7日にベルリンの壁が崩れた。友達の家でテレビを見ていて、一体何が起きているのか分からなかったなあ。留学でも、アマデウス・クワルテットのサマーコースでも、その時に学んだことはもちろんあるけど、時間が経ってくればるほどいろんな経験が自分の中で結晶してくる、それが面白いなと最近特にそう感じます。

Q 山形はいかがですか？

A 30年くらい前に新日フィルで県民会館に来たのがおそらく初めて。その時は各地をまわっていたからあまり覚えていないのですが、バス・トロンボーンの高橋くんや飲んだらしい(笑)。山響には、たぶん15年くらい前から呼んでいただいています。山形に来るとほっとして仕事に打ち込める。空が広いのが良いね。冬の寒さは厳しいですが、とても好きな町です。

Q 休みの日は何をして過ごしていますか？

A 休みがあったら家事・雑用をこなすかな。演奏する曲の資料を読んだり…あとは、曲をさろう！

Q 好きなヴィオリストは？

A まずは師匠、V.メンデルスゾーン、P.シドロフ、それから、キム・カシユカシャン…たくさん。きりがなくなるね。

Q 好きな作曲家は？

A 基本みんな好き。バッハ、ハイドン、ベートーヴェン、シューベルト、メンデルスゾーン、ショパン、シューマン、フンメル、ブラームスも好きだし…いくらでも出てきてしまう。

Q 古楽器の魅力は？

A あんまり古楽器と思ってやっていないからなあ。この間のコンチェルトンテ(12/6「アマデウスへの旅」リクエストVol.1)で使った楽器は山響でも普段使っているんだけど、1711年に作られたもの。古いでしょ。弦楽器のオールドと呼ばれるものだけど、古楽器とは呼ばないですよ。僕はどの業務でもスチール弦ではなくガット弦を使っているんです。ガット弦は今回の定期で演奏するシューベルトやシベリウスの時代にももちろん使われていたし、ストラヴィンスキーやバルトークの時代、20世紀中頃までもガット弦だったから、彼らが知っていたであろう道具を使いたいと思って演奏しています。それを使うことによって、その作曲家が書いたことが理解しやすくなるし、使ってみなければわからないこともあるし。道具自体を取り替えることはあっても、音楽をするという上でそこに垣根はない、という言い方になるのでしょうか。

Q 最後に、お客様へのメッセージをお願いします。

A 音楽で胃袋は満たされませんが、心は満たされます。これからも皆様と心満たされる時間を共有できますことを願っております。

次回は、五十嵐達也さんです